

男と女のニューライフセミナー 12月18日

パパ料理講座

パパごはんを食卓に笑顔を
講師 岡村 雅晴 (料理研究家)



事業紹介

子育て中の男性を対象に、家族に料理をつくることをとおし、性別役割分担意識の解消やワーク・ライフ・バランスについて考えてもらう講座を実施しました。

講師の岡村さんから「共に働き、共に家事や子育てをする時代に来た今、男性が作る料理は趣味で作るものから、家族が応援が得た時に作るものになる必要がある」等、男性が料理をつくる意識について説明がありました。また、パパが料理を作ることで家族が笑顔になり、それが自分の喜びともなることを経験者をおまえて話されました。



料理をするうえで基本となる計量器具の使い方について「レシピの分量どおり計ることがポイント」とのアドバイスを受けたパパたちは、最初に料理に取り組みました。

子どもたちの声援を受けてできあがった料理を家族と一緒に食べ、「とてもおいしい」という声があがりました。パパたちからは「料理を毎日作ってくれる妻の大変さがわかった」、「料理へのハードルが低くなった」、「料理の基本がわかった」等の声が多かったです。

料理は技術ではなく家族への思いやり～パパが料理を作ることで家族が喜び、それを見てママも笑っている家庭がたくさん増えてほしいものです。

退職前後の男女の行動と意識の実態は？

男女平等推進センターでは、身近な女性・男性問題をテーマにした市民グループによる調査研究を支援しています。

平成22年度は、団塊世代のグループが筑後地域における退職前後の男女を対象に、退職後の行動や意識などについて調査しました。少子高齢化の経済停滞期に、退職後どのような生活をしたのか、また地域からは何を求められているのかを、報告会での発表の一部から紹介します。

【調査実施グループ】NPO法人 新築後のまもなくごセンター
【テーマ】退職前後の男女の行動と意識及び地域の支援調査



市民グループ調査研究報告会 3月5日

2025年頃には、4人に1人が65歳以上になるといわれています。少子高齢化が進んでいる日本において、これら多くの団塊の世代の生き方は、経済や社会状況に影響を及ぼすであろうという調査意識から、今回の調査が行われました。男女265名から得た回答を分析し、報告書としてまとめられています。

退職後、週3～4日仕事をしている男性は47.7%、女性は33.7%で、かなりの割合の人が仕事をしていました。平均月収は男性134,000円、女性76,000円で、男女でかなりの格差があることがわかりました。

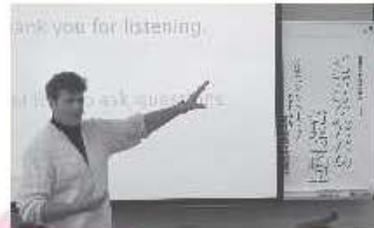
「コミュニティのお世話をしている人」は男性32.5%、女性30.2%で、「お世話をしていない人で今後したい人」の割合は、男性58.3%、女性50.0%にものぼり、活動内容は男女とも、自治会・高齢者・育児・教育などの支援や、地域の交流や活性化などが挙げられています。

このように、退職後も仕事を続けたいと考えている人が多く、これら団塊の世代の人々が意欲と能力を十二分に発揮しながら社会貢献ができる機会が求められていることがわかりました。

退職前後の男女の行動についての興味深い報告でした。

男女平等推進センタージャーナル 2巻

誌上講座レポート



イギリス人パパの 育児奮闘記 1月29日

講師 アダム・ヘイルズ

(北九州市立大学外国語学部英語学専攻准教授)

北九州市立大学において、男性で初めて育児休業を取得したイギリス人のアダム・ヘイルズさんに、休業中の育児体験や、ワーク・ライフ・バランス等について、お話しいただきました。

(このレポートは講演の一部をセンターで要約したものです)

大学初の育児休業

イギリスでは、子どもが生まれてから2週間、会社を休んでよい制度があるので、三女の出生を機に育児休業を決定したのは私にとってごく自然なことだった。戸惑いながらも子どものお弁当作りや幼稚園の送迎、掃除、食事作り等の家事の合間に仕事と、24時間では足りず、めまぐるしい生活であったが楽しく過ごすことができた。

大学の准教授という私の職種は、他の職種よりも育児休業をとりやすいと思う。しかし職場に迷惑をかけたくないとの理由から、今まで職場で取得した人は一人もいなかった。私は2人の顔を見ながら、三女の出生前後8週間とその後3ヶ月間も可能な限り育児休業を取得したが、職場の仲間には理解を示し応援してくれた。「今の自分の仕事は家事や育児をすること」と割り切って考えることが大切だと思う。

家庭と仕事のバランス

家庭と仕事の両立は大変である。仕事も大切だが、子どもや家族も大切だと思う。「今日この仕事を本当にしなければならぬか」といつも自分に問いかけていた。男性が食事を作ることは特別なことではなく、無理せず自分でできる範囲でやること。母や妻の真似はしなくていいと思う。

「男らしさ・女らしさ」はどこからきたのか

「男らしさ・女らしさ」のイメージはメディアの影響が大きい。テレビ等で男性の強さをアピールしたCMを幼い頃から見続けると、メディアがつくりあげた「男らしさ」をカッコいいと思ってしまう。その結果、男性は子育てや家事等に関心をもちにくくなる。メディアの中の「男らしさ・女らしさ」に惑わされないことが大切である。

男性も育児休業をとろう

パパのすることに日本人と外国人との間に違いはなく、外国人だから料理や子育てをするわけではない。私も「職場に迷惑をかけたくない」と思うことがあったが、その期間しか味わえない、子どもと触れあえる貴重な時間を盗みたいと思う。育児休業をとった、日本の男性も育児休業をとる勇気を持ってほしい。また、会社も育児休業を取得しやすい環境を整えてほしいと思う。

2011年度 男女平等推進センター事業計画

男女平等推進センターでは、男女共同参画社会の実現に向けて、今年度もさまざまな角度から講座やイベントを企画し実施していきます。
 ここには、性別にとらわれず、自分らしく生きて生きるためのヒントがあります。
 ぜひ、あなたも参加してみませんか！

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
行事予定	・大仙の秋祭実行委員 9/19		・男女共同参画週間 (4/23～29) ・男女共同参画週間 （4/23～29）	・男女共同参画週間 (4/23～29)			・大仙の秋祭実行委員 (9/19～20) ・大仙の秋祭実行委員 (9/19～20)	・大仙の秋祭実行委員 (9/19～20) ・大仙の秋祭実行委員 (9/19～20)	・大仙の秋祭実行委員 (9/19～20)	・大仙の秋祭実行委員 (9/19～20)		・大仙の秋祭実行委員 (9/19～20) ・大仙の秋祭実行委員 (9/19～20)
1. 女性・男性学		男女共同参画週間記念式典 		男女共同参画週間記念式典 			男女共同参画週間記念式典 	ワークライフバランス講座 			女性の力あふれるセミナー 	
2. 生き方支援												
3. 就業支援		女性のためのワークショップ 		女性のためのワークショップ 				女性の就業支援セミナー 				
4. 市民活動・交流支援												
5. 女性と情報												
6. 記念・交流事業												

